

そのときに阿難、佛に白して言さく、世尊まことに何をか此法門に名づけ、我れ等云何んが奉持すべきや。佛阿難に告ぐ、説藥師瑠璃光如來本願功德と名づけ、亦是説十二神將饒益有情結願神呪と名づけ、亦是拔除一切業障應と名づく。是の如く持する時に薄伽梵この語を説きおはる。諸の菩薩摩訶薩及び大聲聞・國王・大臣・婆羅門・居士・天龍・夜叉・健達縛・阿素落・揭路茶・緊捺洛・莫呼洛伽・人・非人等、一切の大衆佛の所説を聞きて、皆大に歡喜して信受奉行し奉る。

國譯藥師瑠璃光如來本願功德經終

巽四、縮開十四、藏廿七套一。

(一) 等覺 菩薩位の位なるも今は佛果をいふ。
(二) 阿僧祇劫 阿は無、僧祇(耶)は阿は無、劫は時の義なり、故に無量無限の時間をいふ。

(三) 薩婆若 一切智をいふ。

(四) 五部灌頂 傳法阿闍梨位なり。
(五) 持明灌頂 學灌頂といひ一尊法の灌頂を受くるなり。

國譯金剛王菩薩秘密念誦儀軌

唐三藏沙門大廣智不空 詔を奉じて譯す。

我れ今、一切の(一)等覺を求むる者或は此の秘密瑜伽速成佛法を知らざるもの、(二)三大阿僧祇劫に於て諸の苦行を忍び、無上菩提に至らざるものを愍念す。我れ是れを愍むが故に金剛頂百千頌の中に於て、略して毗盧遮那如來自性成就法身・金剛界大圓鏡智流出・陀受用異名金剛王菩薩・念誦儀軌を説かん。三密修行大印等を以て、能く真言行の菩薩をして速に如來等覺の位を證せしめ、(三)薩婆若智を獲得し大普賢地に住し、無盡生死界に於て一切の有情を調伏し悉く無上菩提に安住せしめて疲倦なからしめん。先づ應さに金剛頂瑜伽に通達せる阿闍梨を簡擇し(四)五部灌頂或は(五)持明灌頂を求受すべし。若し簡擇を解せざれば則ち自墜失せん。既に眞實の阿闍梨に遇ひ上らば、應さに如來出現の想を生ずべし。所有る上妙の世間の資具を悉く奉獻すべし。何を以ての故に、此の最上乘の法は三世諸佛の共に遵承せらるゝ所なるが故に、此の法中に於ける一一諮問は悉く曼荼羅法・書像法・自灌頂法・息災等の五種の秘密・四印・大印・一印・五

國譯金剛王菩薩秘密念誦儀軌

(二) 三惡趣 地獄、餓鬼、畜生なり。

(三) 問すべからずの意なり。
(四) 淨器界 印を淨めて法身の土となす。

(四) 淨三業 自己の身を淨めて法身となす。
(五) 金剛起印 已下は一一如來を驚かし上るなり。

智成身・三密加持・秘密供養を曉悟せしめ、皆須らく通達すべし。若し眞言行の菩薩は、大菩提心に住せば、所作功德は等覺の果に廻向する故に、大悲を以て利益するを以て速に成佛することを得ん。若し此れに異なる者は、俱だ悉地を得ざるのみにあらずして、是を一切佛を誘ると名く、決定して(三)三惡趣に墮せん。若し所爲の所作皆な菩提と有情を利益するとの爲めにせば、意に求願する所は成就せざることなし。眞言者既に法を受け已らば道場を建立し尊像を安置すべし。新しき淨衣を着し瑜伽法に依り、四時に念誦し乃至二時にし、必ず(三)問す可からざれば、常に適悦三摩地と相應せん。凡そ初め道場に入り佛を禮し長跪して二手を以て、未敷蓮華の如くせよ、此を(三)淨器界の眞言印と名く。眞言に曰く、
唵、囉囉播葉多薩囉達莫。

前印を易へず(四)淨三業の眞言を誦し四處を加持せよ。眞言に曰く、
唵、娑嚩、娑嚩輪、鐸薩囉達莫、娑嚩、娑嚩輪度憾。

次に即ち(五)金剛起印を結べ。二手を以て金剛拳にし、檀慧互に相鉤し、進力頭を以て側め相拄へよ。此の印を結ばんと欲はば先づ二手と心と舌とに於て五智金剛杵を觀じ、印

(一) 一擧する毎に已下は阿闍梨、寶生、彌陀、釋迦の四如來を禮するなり。
(二) 然る後云云以下は四禮は四佛を禮す。

を以て三擧し、此眞言を誦し盡虚空界一切如來を驚覺せよ。眞言に曰く、
唵、囉囉、囉囉、底瑟姪。

(一) 一擧する毎に誦すること一徧し已りて即ち觀せよ、諸佛の數は恒沙の如く、虚空界に滿すと。(二) 然る後に長く二臂を頂上に舒べ金剛合掌し、長く二足を展べ全身を地に委ね東方の不動如來を禮し身を以て奉獻せよ。眞言に曰く、
唵、薩嚩怛佉葉多布祖鉢娑佉曩也、阿答麼南涅槃也多夜彌、薩嚩怛佉葉多、囉囉囉囉囉囉地瑟姪娑嚩給呼。

是の如きの念を作し、一切の如來に承事供養せんと欲する爲めの故に、我れ今己が身を奉獻し、惟だ一切の如來の哀愍を願ふ故に、又二足を欬め、金剛合掌を以て心上に置き、願を以て地に着け、南方寶生如來を禮し、身を以て奉獻せよ。眞言に曰く、
唵、薩嚩怛佉葉多布惹鼻囉迦也、阿答麼南、涅槃也多夜彌、薩嚩怛佉葉多、囉囉囉囉囉囉鼻洗左娑嚩給呼。

是の如きの念を作し、一切如來を供養し灌頂を求請せんと欲ふが爲めに我れ今己身を奉獻せん。願くは一切如來金剛寶を以て我が與めに灌頂し玉へ。又た金剛合掌を以て

(二) 金剛法輪 説法のこと。

頂上に置き口を以て地に著け、西方無量壽如來を禮し身を以て奉獻せよ。眞言に曰く、
唵、薩嚩怛佉葉多布惹鉢囉唎哩修曩也、阿怛摩南、涅槃也多夜彌、薩嚩怛佉葉多、嚩曰囉達摩鉢囉唎哩多也給紇唎。

是の如きの念を作し、我れ今一切如來を展轉供養せんが爲めの故に、己身を奉獻せん。願くは一切如來我が爲めに(一)金剛法輪を轉じたまへ。

又た金剛合掌を以て心上に置き、頂を以て地に著け、北方不空成就如來を禮し、身を以て奉獻せん。眞言に曰く、

唵、薩嚩怛佉葉多布惹羯磨尼、阿引答麼、南涅槃也多夜彌、薩嚩怛佉葉多、嚩曰囉羯磨俱嚩給嚩。

是の如きの念を作し、我今一切如來を供養し、事業を作さんが爲めの故に、己身を奉獻せん、願くは一切如來、我が爲めに、金剛事業を成就したまへ。

(三) 右膝を以て、已下は普通なり。

次に(二)右膝を以て地に着け金剛持印を結び印を以て頂上に置き、想へ普く一切如來及び菩薩の足を禮すと。左を覆せ右を上げ大小指を互りて相鉤せよ、是れを持印と爲す。眞言に曰く、

唵、嚩曰囉勿。

(一) 次に隨喜云云
(二) 五悔を觀す云云
(三) 二手金剛拳云云
(四) 以下卽字觀なり
(五) 婆伽梵の如くにして、説法に住し、身を淨月輪に處し、明鏡を敷き坐すが如く、光明法界に遍じ、普く有情界を淨め、即ち(六)摩吒の眼を以て虚空佛を瞻視し、旋轉して八方を視、金剛燄を散射し、結界及び辟除する處金剛城に等し。

次に(三)四無量心三摩地に住す。心月輪の中に於て羯磨金剛を觀じ大悲心を以て一切有情の苦を斷じ羯磨輪を觀するに法界に周遍す。眞言に曰く、
唵、摩訶迦囉拏也薩頗囉。

次に慈心を運び羯磨輪を以て有情界に徧じ無量の樂を與ふ。眞言に曰く、
唵、摩訶每底哩夜薩頗囉。

次に喜心を以て羯磨輪を運び有情界に徧す。眞言に曰く、
唵、薩嚩輸駄。鉢囉母那薩頗囉。

次に心運び羯磨輪を有情界に徧じ大捨を成就す。眞言に曰く、

(一) 金剛合掌 兩手を合するなり。

唵、摩呼閉訖灑、薩頗囉。
次に(一)金剛合掌の印を結び金剛合掌の真言を誦して曰く、
唵、嚩囉惹里。

(二) 金剛縛 兩手を合して組み合はするなり。

即ち此の前印を以て便ち(三)金剛縛と爲す。金剛縛の真言を誦して曰く、
唵、嚩囉滿駄。

(三) 開心 自己の心蓮を開發するの義。

次に(三)開心印を結べ。先づ右の乳の上に於て怛囉字を想へ、左の乳の上に吒字を安せよ。想へ此の二字は扇を啓くが如く前の縛印を以て心上に拍し、三たび之を掣き開けよ。

真言に曰く、

唵、嚩囉滿駄怛囉吒。

(四) 一肘 一尺六寸なり。

次に前の(一)一肘に當りて八葉の蓮華を觀せよ。其の華上に於て嚩字を置け、大光明を放つこと水精の如く白色にして即ち金剛縛を以て二風を出し、其字を捻取すること心殿中に置くが如し。真言に曰く、

唵、嚩囉吠舍囉。

(一) 金剛縛 合智の印をいふ、如來の智を心に運入せしめて散失せざるの義なり。

其字を安じ已れば歷然として心に在り、次に(二)金剛縛を以て二空を並べ屈し掌に入れ二風を以て各各屈して、二空の背に柱へ、印を以て臂に觸れよ。真言に曰く、
唵、嚩囉母瑟致給。

是を以て門を閉ぢ已りて、想へ其字分明にして住せりと。

次に普賢三摩耶印を結べ。金剛縛にして二火を申べ合せよ。真言に曰く、
唵、三摩耶薩怛鏤。

(二) 悦喜三昧耶 自利々他満足して歡喜通悦する義なり。

次に(二)悦喜三摩耶印を結べ。前の如く縛し、忍願を掌に入れ交へ合せ、地空を皆な合せ豎てよ。此の大欲の箭を以て彼の二乗の種を射よ。真言に曰く、
唵、三摩耶斛、素囉多薩怛鏤。

次に勝三世印を結べ。二手を以て金剛拳にし、檀慧の背を相鉤し、二風を各々正せよ。

真言に曰く、

唵、遜婆頼遜婆吽、唎哩恨拏唎恨拏吽、唎哩恨拏播也吽、阿曇也斛婆譚鏤、嚩囉吽吽。

是の印を以て左旋して辟除を成じ、右旋して結界を成せよ。次に定印を結べ。(三)二羽

國譯金剛王菩薩祕密念誦儀軌

(三) 二羽 兩手なり。

(一) 端身正座云云
無識身三昧とい
ふ。これ数息観な
り。

(二) 時に彼云云
以下五相成身に
て行者が佛身を成
就する上の五種の
階級の觀念をいふ
初めに通達菩提心
なり。通達菩提心
さは自身の清淨な
観するなり。

(三) 行者云云
相成身の中の第二
の修菩提心にして
自己の菩提心は淨
月の如くなるを修
習するなり。

を外に相又へ齋下に仰け置き、進力を以て禪智を捨せよ。眞言に曰く、
唵、三摩地鉢納銘訖唎。

(一) 端身正座して是の思惟を作せ、一切諸法は自身より起り、本より已來皆な所有なし
と。寂滅定に入り已れば即ち復た觀せよ、虚空中の無數の諸佛は猶ほ大地に胡麻を
滿盛せるが如し、稱げて數ふ可らず。(二) 時に彼の諸佛各右手を舒べ彈指驚覺して行者
に告げて言まはく、善男子よ、汝の證する所は一道清淨にして未だ一切智海を證せず
應當に菩提の心を憶念し、普賢一切の行願を成就すべし。行者驚覺を聞き已り、自ら
己身を觀じ、諸佛の前に於て一一に禮を作して佛に白して言さく、云何菩提心と名く。
諸佛告げて言まはく、汝心中の字門を觀せよ、本性清淨にして淨滿月の如し。眞言を
授與して曰く、
唵、質多鉢囉底吠野迦囉彌。

(三) 行者旨を承け默して一徧を誦し即ち自心を觀するに淨滿月の如しと。爾の時に諸佛
復た是の言を作せり。善男子、菩提の心體相は此の如しと、復た眞言を授けて曰く、
唵、胃地質多母但波娜夜彌。

(一) 菩提の體性云
云。五相成身の第
三にして成金剛心
なり。

(二) 微曰囉云云
金剛杵廣大にして
法界に周遍するこ
の形を法界に周遍
せしむ。漸々云云
(三) 漸々云云。金
剛杵にして其の金
剛杵に於て其の本
尊を自身に量に等
同ならしむ。

(四) 此身金剛身云
云。五相成身の第
四證金剛身にして
本尊を自身に入
なり。
(五) 五智金剛云云
佛身圓滿身なり。

行者默して一徧を誦し已り是の思惟を作せり、(一) 菩提心の體性は堅固なりと。即ち月
輪の上に於て五智金剛杵を觀す。眞言に曰く、
唵、底瑟姪囉曰囉。

金剛杵を觀るに猶ほ金色の如く、淨明を放ち、月輪の中に在りては猶ほ水精の如く内
外明徹す。又此の(二) 囉曰囉を觀するに廣大にして法界に周し。眞言に曰く、
唵、薩頗囉囉曰囉。
又囉曰囉を觀するに(三) 漸漸に却て斂まり、所在る虚空の中の諸の如來は一體に合同す
と、量、己身に等じて止めよ。眞言に曰く、
唵、僧賀囉囉曰囉。

復た應に是の思惟を作すべし。我れ今、(四) 此身金剛身と成ると。眞言に曰く、
唵、囉曰囉但麼俱憾。
自らは是の(五) 五智金剛を知らば則ち又た變じて本尊身を成す。身に四臂あり、上の二は箭
を端むる勢に住す、下の右手は仰げて心に當て金剛杵を持し、下の左手は金剛拳と爲
し、腰側に安在し、金剛鈴を持す。眉を擡め口に微笑し白色にして五佛の冠を戴き、

緋裙天衣を着し、月輪中の蓮華上に半跏坐し、即ち根本印を結べ、二手を以て金剛拳にし檀慧と進力とを反け相鉤し、即ち是れ彼の印なり。真言を誦して曰く、
吒积吽惹。

此の印を以て心額喉頂の四處を加持し已り、即ち金剛界の自在印を結べ、堅固縛にし
て二火を伸べ、初分を屈して相拄へ、二風を舒べて背を附けよ。真言に曰く、
唵、歩欠。

當さに印を以て頂上に安き、前の真言を誦すべし。

次に又額に安け。真言に曰く、

唵、嚩囉薩怛嚩。

次に頂の右に安け。真言に曰く、

唵、嚩囉囉囉怛那。

次に頂の後に安け。真言に曰く、

唵、嚩囉達磨。

次に頂の左に安け。真言に曰く、

唵、嚩囉羯磨。

次に金剛拳を以て額に當て分ち、頂の後に向け二風を伸べ、三たび相遠し、便ち地輪より歴く展べて、兩の肩より下して鬘帶の勢に爲せ、真言に曰く、

唵、嚩囉摩羅避説者給。

(一)次に想云云、結背の印をいふ、行者金剛の甲冑を着けて各所を結ぶの謂なり。
(二)次に悦喜云云、悦喜の印を結びながら三拍す、之れ拍掌なり。

(三)金剛入印云云、現智身と云ふ、行者此の觀に住して金剛薩埵を冥合するなり。

(一)次に想へ唵砧の二字、二風の面に在り、唵は右にして砧は左なり、綠色の光を出し藕絲を抽くが如くし、便ち緣索を以て心上に於て三たび遠らせ。次に背齋二膝、又た仰けて齋に至り、次に腰の後、次に心、次に右左の兩肩、次に頸、次に額、次に頂の後、便ち前の如く天衣を垂るる勢にし並びに唵砧の二字を誦せ。(二)次に悦喜の契を作して金剛縛しながら三たび拍せよ、真言に曰く、
唵、嚩囉觀使也斛。

即ち淨月輪を觀じ、中に斛字を觀せよ、變じて本尊と爲り便ち、(三)金剛入印を結び、縛し已れば二空を並べ掌中に入れよ。真言に曰く、
唵、嚩囉薩怛嚩惡。

又た此の真言を誦して曰く、

國譯金剛王菩薩祕密念誦儀軌

二手を金剛拳にて、地輪を反し相鉤し、二風を各各正しく直くせよ、右風を屈して鉤の如くし、結び已りて真言を誦し、右の風を以て三招せよ、是れを金剛鉤と爲し即ち、真言を誦して曰く、

唵、嚩曰囉央句舍弱。

此の前印を易へずして、二風の面を相合し、相盛めて環の如くならしめよ、是を金剛索と爲す。

真言に曰く、

唵、嚩曰囉跋捨吽。

索印を易へずして、二風を反し相鉤せよ、是を金剛鎖と爲す、即ち真言を誦して曰く、

唵、嚩曰囉薩怖吒鏝。

此の前印を改めずして、二地及び二風を、悉く面をして相合はしむ、是を金剛鈴と爲す。

真言に曰く、

唵、嚩曰囉健吒解。

金剛鉤を結ぶに由りて、即便ち本尊を降し、金剛索印に由りて、能く聖者を引き、金剛鎖印に由りて、即ち能く止住せしめ金剛鈴を結ぶに由りて、能く諸聖を悦喜せしむ。

（二） 闍伽 佛前に
供ふる淨水をい

次に應さに（二） 闍伽を獻すべし、金剛合掌印を以て平側にして左に向け真言と俱心に其器を按じ、然して之を獻す。真言に曰く、

唵、跋囉麼素佉捨也、娑囉里多曩麼帶、嚩娑囉弼多曩麼弼、婆誑嚩耽、弱吽鏝解、係鉢囉底車句素漫惹格曩託。

次に左の金剛拳を以て腰の側に置き、右の金剛拳を仰けて心に當て。真言に曰く、

解嚩曰囉薩怛鏝、素囉多薩怛鏝。

即ち金剛王印を以て左の拳を以て弓を執る勢を爲し、右を箭を引く勢を爲せ、是を意生金剛と爲す。真言に曰く、

唵、嚩曰囉薩怛吠吽。

次に二金剛拳を以て右にて左を押し臂を交へ胸を抱け、是を計里枳囉金剛印と爲す、

國譯金剛王菩薩秘密念誦儀軌

真言に曰く、

唵、嚩日囉計里吉黎。

次に左の金剛拳を以て右肘を承け、右拳之を豎てて幢相の如くせよ、是を愛金剛印と爲す。真言に曰く、

唵、嚩日囉擬里斛。

次に二拳を以て各各腰の側に安け、是を意氣金剛の印と爲す。真言に曰く左順之を爲せ、

唵、嚩日囉莫迷咽你。

次に前に弓を挽く勢を以て稍々下に向け、柔軟に之を爲せ、是を意生金剛女の印と爲す。真言に曰く、

弱、嚩日囉涅里瑟致娑也計麼吒。

次に前に抱く勢の如くして柔軟ニウナンに之を爲せ、是を計里枳黎金剛女の印と爲す。真言に曰く、

吽、嚩日囉計里枳隷吽。

次に前の如くして幢印にせよ、是を愛金剛女の印と爲す。真言に曰く、

鏘、嚩日囉泥薩麼囉囉吒。

次に前の如くして二拳を腰の側に安け、是を意氣金剛女の印と爲す。真言に曰く、

斛、嚩日囉迦迷失嚩哩恒噴。

次に縛を以て上に散せよ、是を時春の印と爲す。真言に曰く、

唵、嚩日囉布瑟閉。

次に二を下に散せよ、時雨の印と爲す。真言に曰く、

唵、嚩日囉度閉。

次に縛を以て二空を以て頭を相捻し以て二目の間に安け、時秋金剛の印と爲す。真言に曰く、

唵、嚩日囉路計。

次に二を以て臂に塗れ、時冬金剛の印と爲す。真言に曰く、

唵、嚩日囉嚩提。

次に前の鉤を以てせよ、是を色の印と爲す。真言は前の如し、已下、前に同じ、唯、女聲の字を異と爲す。

次に前の索の如くせよ、是を聲の印と爲す、真言前の如し。次に前の鎖の如くせよ、

是を香の印と爲す。次に前の鈴の如くせよ、是を味の印と爲す。次に前の鈴の如くせよ、是を味の印と爲す。色の真言に曰く、

唵、嚩日囉央句始弱、

聲の真言に曰く、

唵、嚩日囉跋勢吽。

香の真言に曰く、

唵、嚩日囉商迦隸鏤。

味の真言に曰く、

唵、嚩日囉健隸斛。

次に前の金剛王印の如くして右拳を以て身に向け旋轉すること、三四せよ、高聲に眞言を誦せ、便ち能く十方世界を震動し、一切の佛菩薩は行人を加持し速に悉地を與へん。眞言に曰く、

吒枳吽惹。

次に舞ふ所の拳を以て心上に安け、即ち能く十方世界を慰安す。眞言に曰く、

吽吒枳斛。

次に根本印を結び、百字眞言を誦すること、或は七遍或は一編せよ、其の印を解かずして本眞言を誦すること七遍し、即ち頂上にて印を散せよ。百字眞言に曰く、

唵、嚩日囉薩怛嚩三摩耶摩努播囉也、嚩日囉薩怛嚩底尾努播底瑟姪、涅哩住彌婆嚩、素觀使唵彌婆嚩、阿努囉訖視彌婆嚩、素補使唵彌婆嚩、薩嚩悉朕彌鉢囉也、薩嚩彌、摩素耆彌、質多室唵藥句嚩、吽、呵呵呵斛、薄誡鑊薩嚩怛他莫多嚩日囉麼彌悶遮、嚩日利婆嚩、摩訶三摩也薩怛嚩嚩。

次に二手を以て珠を捧げ頂戴し、然る後却て至心に念珠を加持し、千轉の眞言を誦すること七遍せよ。眞言に曰く、

唵、嚩日囉、虞咽也惹播三麼曳吽。

次に當に瑜伽所説の念誦と四種念誦の中の金剛語念誦を以て最も相應と爲すべし。或は萬、或は千、下りて一百八遍に至り、或は萬を過すこと心に任せて數を定めよ。一切の時中初の數を取りて定めと爲せ、數を限り畢已れば、復た内外の供養を陳べ、闍伽を奉獻し自意の願を求せよ。復た三世勝印を結び及び本眞言を誦すること一編し

(一)念誦 口に眞言を誦するをいふ
念誦 三摩地念誦
念誦 降魔念誦
念誦 金剛地念誦
四種あり、三摩地は觀念なり、金剛は舌動せざる聲を出さず、降魔は聲に唱ふ。

印を以て左旋すること一帀し、結界する所を解け。復た初めの三摩耶印を結び頂上に置き、金剛解脫眞言を誦し、聖尊及び其眷屬を奉送せよ。眞言に曰く、
唵、嚩囉薩怛嚩嚩。

奉送し已りて復た三昧耶印を結び、眞言を誦し四處を加持せよ。灌頂・被甲・悦喜印等なり。道場を出で已りて一切の時に於て但だ大菩提心に住し、或は常に大印を持せば、即ち現生に於て等覺を成ずることを得ん。何ぞ況んや諸果を成就せざらんや。唯だ一切の有情を利益せざる心と菩提を捨つる心とを除けば、餘の所求の善願は尅獲せざることなし。

國譯金剛王菩薩秘密念誦儀軌 終

國譯受菩提心戒儀

普賢瑜伽阿闍梨の集

唐特進試鴻臚卿三藏沙門大廣智(一)不空 詔を奉じて譯す。
最上乘教受戒懺悔文。

(二)弟子某甲等、稽首し歸命して徧虛空法界の十方の諸の如來と、瑜伽總持の教と、諸天菩薩衆とを禮したてまつり、及び菩提心を禮し、能く福智聚を滿たして無上覺を得せしめん、この故に稽首して禮したてまつる。

(三)禮佛の眞言に曰はく、
唵、薩嚩怛佉孽多、跋娜滿那喃迦嚩彌。
次に連心供養すべし。

(四)弟子某甲等、十方の一切の刹に、有らゆる諸の供養、華鬘・燈・塗香、飯食・幢・旛・蓋、誠心を以て、我れ、諸佛大菩薩、及び諸の賢聖等に獻じ奉る、

國譯受菩提心戒儀

乾一、縮開一、藏二十七卷一。

(一)普賢 普賢は眞言宗の第二祖龍智菩薩、瑜伽阿闍梨は梵語にして、梨伽は相應、阿闍梨は規範師と譯す。
(二)不空 眞言宗第六祖獅子國の人なり。
(三)弟子某甲云云 此の二節は第一段歸命の句にして、菩提心戒を受くる前に歸命するの状を記す。

(四)禮佛云云 第二段禮佛の句なり。

(五)一切の刹の方に遍在せる一切の淨土の意味。
(六)賢聖 教法を相承したる諸賢聖を云ふ。

我れ今至心に禮したてまつる。

(一) 普供類云云
此の下一段第三に
普供類の段なり。

(二) 普供類虚空眞言に曰はく、
唵、オン 毘羅菩薩、ヒラハツツ 三婆嚩日囉、サンババザラ 斛。コク

(三) 次に應さに云
四に懺悔の段なり。

(三) 次に應さに懺悔すべし。

(四) 無始流轉始
め無き昔より生死
に廻る來りたるを
云ふ。

弟子某甲等、今一切の佛、及び諸の大菩薩衆に對ふてまうさく、

(五) 眞如性 佛の
性を云ふ。

過去世の、(一) 無始流轉の中より、乃至今日に至るまで、

(六) 勝義諦云云
大乘の教を云ふ。

(二) 眞如性に愚迷して、虚妄分別、貪瞋痴と不善の三業と、

(七) 無量無邊劫
切は時の無限なる
を云ふ。

諸の煩惱と、及び隨煩惱とを起し、他勝罪と及び餘の罪愆等とを違犯し、
佛法僧を毀謗し、三寶物を侵奪し、廣く無間の罪を作ること、

(八) 無量無邊劫にして、
數を憶知すべからず、
自らも作し他をも作さしめ、
見聞し及び隨喜す、
復た(九) 勝義諦眞實微妙の理により、
聖慧眼を以て觀察するに、
前後中三際に、
彼れ皆所得なし、
自心に分別を造して、
虚妄不實なるが故に、
慧方便を以爲するときは、
平等にして虚空の如し、
我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(九) 眞實微妙の理により、
聖慧眼を以て觀察するに、
前後中三際に、
彼れ皆所得なし、
自心に分別を造して、
虚妄不實なるが故に、
慧方便を以爲するときは、
平等にして虚空の如し、
我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十一) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十二) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十三) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十四) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十五) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十六) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十七) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十八) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(十九) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十一) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十二) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十三) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十四) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十五) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十六) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十七) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十八) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(二十九) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十一) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十二) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十三) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十四) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十五) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十六) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十七) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十八) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(三十九) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(四十) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(四十一) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(四十二) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(四十三) 我悉く皆懺悔す、
誓つて敢て覆藏せず、
今懺してより已後。

(一) 正覺 覺を得
ると即ち佛果を得
ると云ふ。

(二) 此の一段は第
三に歸依の段なり
云ふ。

(三) 五智三身の佛
には勝れたる五の
智慧あり、身は三
の勤をなす。

(四) 眞言 眞言
宗の教を云ふ。眞言
宗の教を云ふ。眞言
宗の教を云ふ。

(五) 不退轉 覺を
開き得て再び凡夫
の位に退轉せざる
を云ふ。

(六) 三寶 佛寶と
法寶と僧寶との三
を云ふ。

(七) 一切の衆生を救
ふ故に云ふ。救
ふ故に云ふ。

(八) 前迹の五智三身の
佛寶に、金剛乘眞
如自性の法寶と、眞
大悲の菩薩の僧寶
之れなり。

(九) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十一) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十二) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十三) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十四) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十五) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十六) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十七) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十八) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(十九) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(二十) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(二十一) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(二十二) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(二十三) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(二十四) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

(二十五) 次にまことに云
六に受菩提心戒の
段なり。

我今至心に禮したてまつる。

三歸依眞言に曰く、
唵、ウクン 歩欠。

(七) 次にまことに菩提心戒を受くべし。

永く斷じて復た作らず、乃し(一) 正覺を成するに至るまで、終に更らに違犯せず、
惟願はくは十方の佛、一切の菩薩衆、我を哀愍加護し、
我が罪障をして滅せしめたまへ、是の故に至心に禮し奉る。

懺悔滅罪眞言に曰く、
唵、ウクン 薩嚩跋波捺賀曩嚩日囉野娑嚩賀。

(三) 次にまことに三歸依を受くべし。

弟子某甲等、今日より已往、諸の如來と、(三) 五智三身の佛とに歸依したてまつる、

(四) 金剛乘、自性眞如の法に歸依したてまつる、(五) 不退轉の、

大悲菩薩僧に歸依したてまつる、(六) 三寶に歸依し竟つて、終に更らに自利と邪道と
の道に歸依せず、

我今至心に禮したてまつる。

弟子某甲等、一切の佛菩薩、今日より已往、

乃し正覺シヤウガクを成するに至るまで、誓つて菩提心を發す、

(一)有情無邊なり度せんと誓願す、(二)福智無邊なり集めんと誓願す、

(三)佛法無邊なり學せんと誓願す、(四)如來無邊なり事へたてまつらんと誓願す、

(五)無上菩提を成せんと誓願す。

今發す所の(六)覺心は、諸の(七)性相、(八)蘊界及び處等、

能取所取の執を遠離す、諸法は悉く無我にして、平等なること虚空の如し、

自心は本不生なり、空性圓寂なる故に、諸佛菩薩の、

大菩提心を發したまふが如く、我も今是の如く發す、是の故に至心に禮したてまつる。

次に受菩提心戒の眞言を誦して曰く、

唵、冒地唧多母但波那野彌。

譯者云。次下最上乘教受菩提心戒懺悔文の一段あれども、本巻載する處の無畏三

藏禪要と全同につき之を略す、尤も仁、運、二師請來本には之を載すれど

(一)有情無邊なり云云
此の一段を五大誓願といふ。

(六)覺心 菩提心
なり。性相 一切の
萬有の本體。其の
相貌をいふ。蘊界云云
(七)蘊界云云
は色と受と想と行
と識の五蘊。界は十二
十八界。處は十二
處にして、自身は
身心の聚合の様を
いふ。

も、弘法大師請來本は斯に止まれり。恐らくは是れ後人の附會ならん。

國譯受菩提心戒儀 終

國譯受菩提心戒儀

大正九年六月十日印刷
大正九年六月十五日發行

國譯密教經軌第一奧付

【非賣品】

東京府北豊島郡高田町字雜司ヶ谷三百十二番地

編纂者 塚本賢曉

東京市牛込區若宮町三十五番地

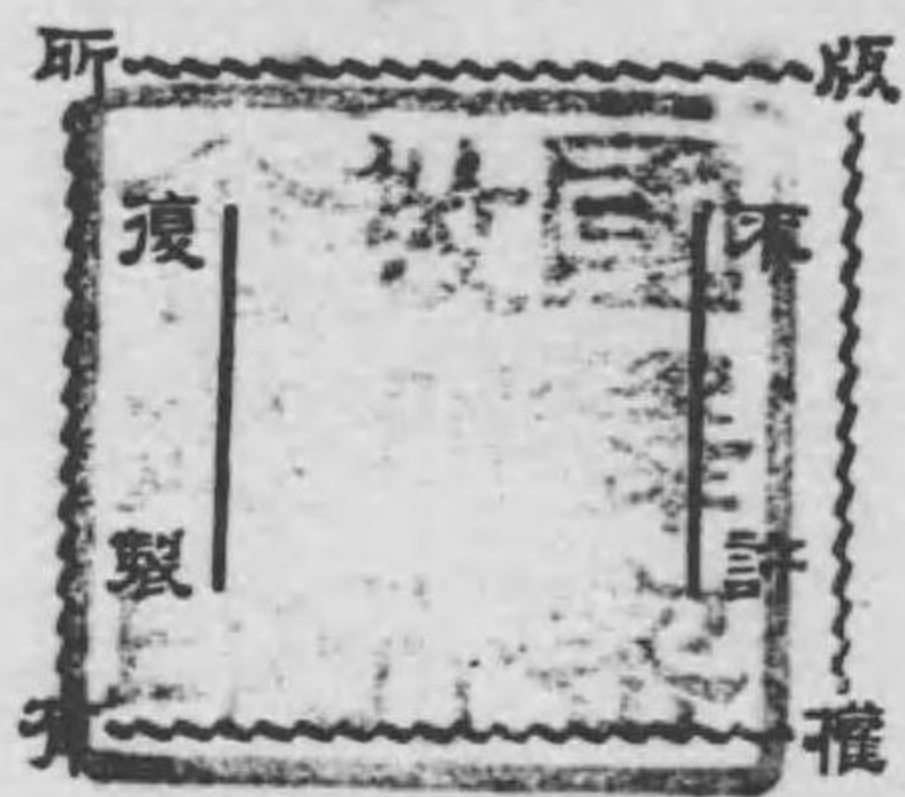
發行者 伊豆宥法

東京市本郷區湯島三組町八十一番地

印刷者 川邊多門

東京市本郷區湯島三組町八十一番地

印刷所 川邊活版所



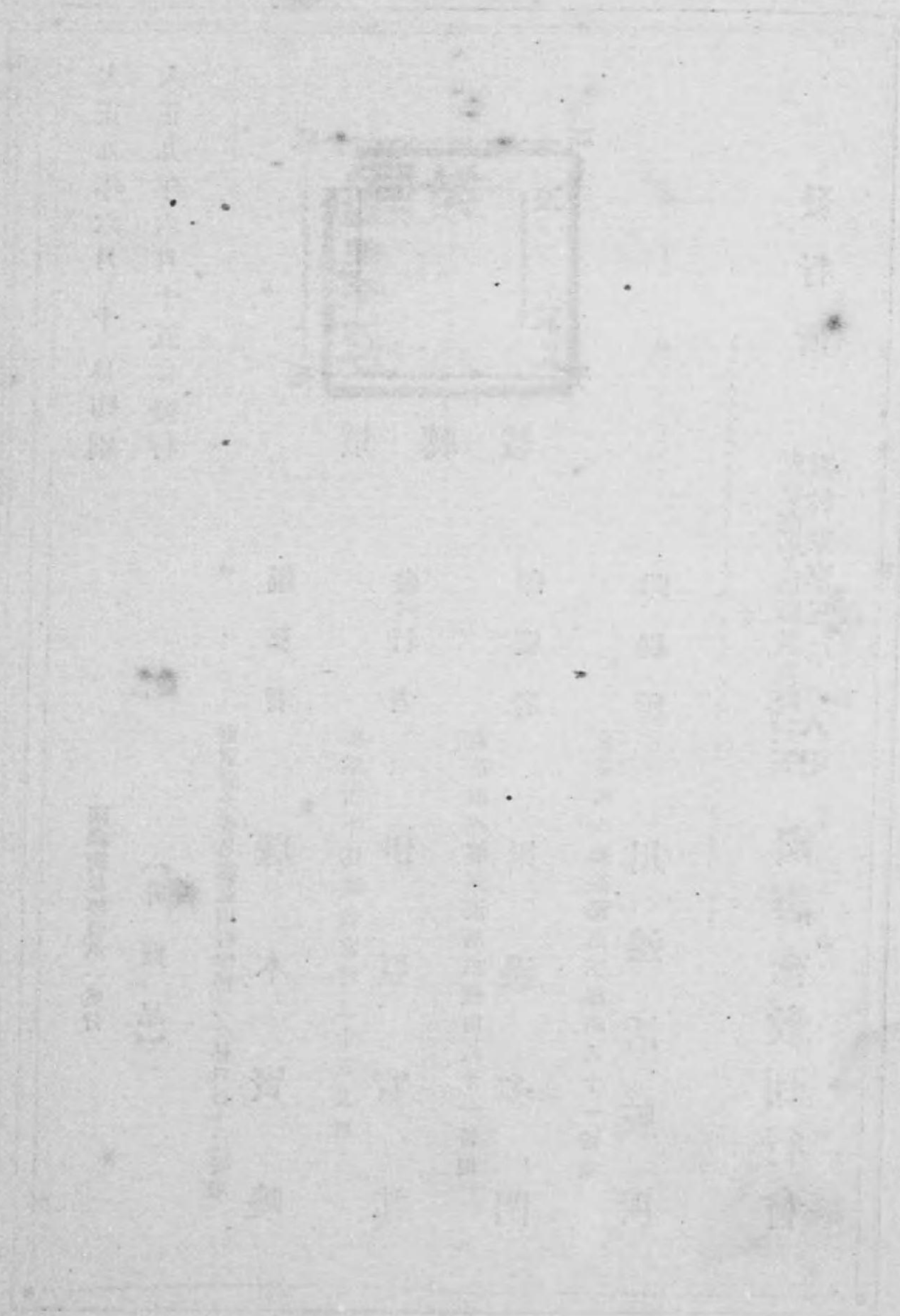
禁轉載

發行所

東京市牛込區若宮町三五
振替東京五〇一八七

國譯密教刊行會

--	--	--	--



IT-7G-67

--	--	--	--

終